

# 連携協働通信「架け橋」

横浜市教育委員会 学校支援・地域連携課 発行 NO.50

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行しています。当課のWebサイトでもご覧いただけます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/chiikirenkei/gakkoushien.html>

## 学校・地域コーディネーター研修・交流会 報告

5月29日に、学校・地域コーディネーターの皆様を対象に今年度初めての研修・交流会を実施しました。横浜市では、多くの学校で学校運営協議会の設置が進んでおります。そのような中で、地域学校協働活動を持続可能な仕組みとしながら、全コーディネーターの皆様を対象とする研修を通して質の向上を実施していくことが重要になってきています。そのため、例年は、方面ごとに行っていた本研修を、今年度は、経験に応じて活動に生かすことができるような研修内容にしていきたいと考え、経験年数で午前・午後に分かれての研修として実施いたしました。

研修では、まず教育委員会事務局より、学校運営協議会や地域学校協働活動の役割について再確認していただくために、資料にて説明いたしました。主な内容として、地域学校協働活動は、①各学校の教育課程に沿って行うこと②学校のニーズや実態に合った活動を行うこと③子どものための活動になっているかを振り返ることなどが大切であることをお伝えしました。さらに、学校・地域コーディネーターの役割や地域学校協働本部の活動について、大事な点を再度確認させていただきました。



続いて、講師の高橋 由美子氏より、「地域学校協働活動の“これから”をつくる私たち」というテーマでご講演いただきました。内容は、学校・地域コーディネーターの経験年数に応じた内容で午前・午後それぞれでご講演いただきました。主に「国や市の主な出来事」を基に学校・地域コーディネーターの役割やこれから求められる役割についてのお話がありました。横浜市で学校・地域コーディネーターの制度が始まって20年が経過し、その間、社会はもとより、学校を取り巻く環境も大きく変化してきています。特にコロナ禍からのおよそ5年での変化は大きく、そのような中で学校・地域コーディネーターに求められている役割は「共創を進める人」であり、その役割に応じた活動を担っていくことが大切だというお話がありました。その後、講演の内容を受けたワークと交流を行いました。経験年数が短い方々に向けたワークでは今後、活動を続けていくために活動の社会教育的な価値づけを行うワークを行いました。「子ども」「地域」「学校」「自分」「活動そのもの」の5つの視点を基にして見えにくい価値を見つけることで、価値がさらに深められる内容でした。受講者からは「コーディネーターの良い点に気づけた」「自己肯定感が上がった

た」「これまでの活動を振り返り価値を見出し、可視化、言語化することで今後も続けていこうという意欲につながった」などの感想がありました。経験年数が高い方々に向けたワークでは、見えにくいものを「子どもの成長」「地域とのつながり」「学校への貢献」「自分の学び」「活動の意義」の5つの視点を基にして見えにくいものを言語化しました。経験の中にある“もやもや”と“わくわく”を言葉にすることで次の一步を見つけるワークを通して、自分自身の「価値観」や「強み」について再認識することができる内容でした。受講者からは「自分の考えを改めて見直す言語化ができた」「強みを生かして活動を目指していきたい」「グループで共有したことで他の方の『わくわく』『もやもや』から見てきたものがあつた」という感想がありました。そして最後に講師から「小さな変化が、大きな価値につながる。今日の気づきを明日の活動へ。」「地域学校協働活動の“これから”をつくる。紡いできたものを次へ。」というメッセージをいただきました。それぞれの経験年数によって抱えている課題や経験に合わせた内容をお聞きすることでこれからの活動につないでいくことができる研修となりました。

今後も学校・地域コーディネーターの方がこれまでの活動を振り返ったり、今後の取組について考えたりしていくことができるような研修・交流会を計画、実施していきます。



## 振り返り

(アンケートより抜粋)

- ・ 昨年度の養成講座を受けて聞いている内容だったが、1年経験する中で理解できる内容が増えて、改めて講義を受けることができ良かった。先生たちも学校・地域コーディネーターのことを考える研修をしてくださっていることがうれしかった。(経験1年)
- ・ 昔から子どもたちを取り巻く環境が大きく変わったことを知ることができた。コーディネーターのあゆみや活動の変化がよく分かった。活動の価値について今まで考えたことがなかったのでおもしろかった。自分の役割や強みをなかなか考えることがなかったので自分発見に役立った。(経験1年)
- ・ 時代に沿って、学校も教育も変化していく中で、コーディネーターの役割も変化することを改めて感じ、研修の必要性も感じた。ワークを通して具体的に振り返ることができ、改めて活動の価値を感じることができた。地域と学校の連携・協働の推進に向けて、これからも引き続きコーディネーター間での共通理解を深めていきたい。(経験4年)
- ・ 復習、サビ落としをししながら原点に戻り活動させていただこうと思う。長年の活動の中で感じる「もやもや」「わくわく」が共通することが交流する中でわかり、自分だけじゃない…と力をもらった。これからも活動を継続できるように皆さんとコミュニケーションを持続していきたい。(経験9年)
- ・ 社会の変化に伴い、我々に求められる役割も変わってきていると感じている。学校との意見交換をして、我々の思いや考えも伝えていきたい。(経験8年)
- ・ 日常のサポートや協働に追われていると、さてどの立ち位置で何をしている？と疑問が出てくることもあり、節目で話を聞けるのはありがたい。嬉しい「つながり」も増えてきたので先輩たちも含めた「地域のつながり」を作ることをがんばってみようと思う。(経験10年)

## 学校・地域コーディネーター養成講座① 報告

今年度の学校・地域コーディネーター養成講座がスタートしました。

教育委員会事務局からは、学校支援・地域連携課より「地域とともに子どもを育む学校づくり」について説明しました。学校・地域コーディネーターは何をすればよいのか？なぜ、連携・協働する必要があるのか？地域学校協働活動はどのように進めればよいのか？など、学校・地域コーディネーターの役割と意義について基本的な事項をお伝えしました。

また、人権健康教育課より「子どもの人権」についての説明をしました。横浜市の人権教育について、事例演習などを通して確認しました。「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校・まちをめざして、人とのつながりから学び自分も他の人も大切にできる子どもの育成のために大切なことをお伝えしました。



後半は、高橋由美子氏を講師に、ワークショップや交流を行いました。

ワークショップでは、まず初めに二人組で自己紹介を行いました。その後、先ほど自己紹介を聞いた相手を別の相手に他己紹介を行いました。自分のことを他己紹介で紹介してもらうことは、中々経験の少ない方が多いようでしたが、相手の紹介が心地よい気持ちになったようでした。このような他己紹介する場面は学校・地域コーディネーターで活動する中でも、実践するような場面があるため、どのように紹介するとより相手の魅力が伝わるのか考える機会となりました。その後は、研修室内を歩いてまわり5人の初めて会う方と自己紹介をしあう活動を行いました。学校・地域コーディネーターとして、仲間を増やしていくことは、今後の活動にもつながります。これから一緒に研修を行っていく仲間と交流を深める時間となりました。

これから全5回の研修を通して、学校・地域コーディネーターについての理解を深めていくことができるよう、引き続き研修を進めてまいります。



## 振り返り

- ・学校・地域コーディネーターの役割や目的がよく理解できた。これまでの地域活動で感じてきた課題そのままだったので、学校と一緒に取り組んでいきたいと思った。
- ・ワークショップで他区、他の学校の方と交流できたこと、大変意味を感じた。特に「他己紹介」は慣れてないことだったが、他のメンバーをよく知ることができた。
- ・「学校・地域コーディネーター」という名前は聞いたことがあったが、実際にはどのような気持ちで活動していけば良いのか自分の中に落とし込むことができた。
- ・私たち地域ももっと子どものことを理解すべきだし、大人がもっとこのような、子どもの人権についての学びが必要だと感じた。
- ・学校・地域コーディネーターとして何を求められているのだろうと思っていたが、まずは、学校の中期学校経営方針や学校教育目標を確認しようと思った。学校のニーズを知りたいし、地域の方々ともっとつながりたいと思った。

## お知らせ

### 地域と学校の連携・協働による学校運営の改善研修

学校運営協議会会長、学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター及び管理職、教職員を対象に、標記研修を開催します。【教職員向け研修コード：26ik0703】

#### ○日時及び会場

	日 時	申込み〆切	会 場
1	7月 3日 (金) 15:00～	6/26	花咲研修室
2	7月10日 (金) 15:00～	7/3	花咲研修室

※講師は、CSマイスター 竹原 和泉 氏 を予定しています。

※詳細は、令和8年6月9日付教学第674号発出の通知でご確認ください。

※両日とも同一内容です。ご都合の良い日にちにご参加ください。

## 学校運営協議会の10月設置について

学校運営協議会 設置の機会	
設置日	令和8年10月1日
申請書提出の締切日	8月中

○申請の際は、設置申請書と名簿を合わせてご提出をお願いします。（YCANに掲載）

※現在、単独設置の学校運営協議会を、複数校による合同協議会に切り替える場合、また複数校から単独での協議会をご検討の場合、以下の点にご注意ください。

- ① 合同で立ち上げるまでの間、単独での学校運営協議会の設置校であり続けます。
- ② 合同協議会または単独の協議会への移行について委員への丁寧な説明が必要だと考えます。
- ③ 協議会移行の際は再度、申請書と名簿の提出が必要になります。

※設置に向けてお困りの際は、学校支援・地域連携課にご連絡ください。

※学校運営協議会委員の方々に制度の説明や役割等をご説明させていただくことも可能です。

その際は、学校支援・地域連携課がご説明に伺いますので、ご連絡をお願いします。

**引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。**

**学校支援・地域連携課 671-3278**